5/21(土) まいど！倫々会です。私の知り合いの方がご夫婦でモンゴルの活動へ参加されていた方がいらっしゃいます。私は仲々参加出来ませんでした。
信念がないんでしょう
幸せ運ぶ所信

今週の倫理　5月のテーマ ｜ 信念を持つ　2022.5.21～5.27　1282号

大目標に照準をあわせて事業を展開していこう

倫理研究所が中国内蒙古自治区にある沙漠で植林活動を始めたのは１９９９年春のことです。２０００年に創立５５周年を迎えるにあたり、植樹数を「５万５千本」と定め、春から夏の時期を中心に沙漠緑化隊を派遣し、その目標を二年で達成しました。

近年はコロナ禍の影響により緑化隊を派遣していませんが、２０２０年時点での植林数は４３万３０５５本、延べ２４５４名が植林活動に参加しています。

以前よりこの地で植林活動を始めていたのは、農学者であり鳥取大学名誉教授であった故・遠山正瑛氏です。１９８４年、八十歳を目前にしていた遠山氏は、中国での沙漠緑化事業を本格的に始めました。

鳥取大学退官後、遠山氏はなぜ中国での植林活動を始めたのでしょうか。遠山氏が設立した「日本沙漠緑化実践協会」の機関誌には、次のように書かれています。

「地球上陸地の四分の一に当たる沙漠地の緑化は世界平和への道と信じています。沙漠の国は戦乱が絶えません。貧しさに宗教と民族がからんでのことです。沙漠を緑化し沙漠の民の貧しさを少しでも少なくする。それは平和への基本であります。祈りだけでなく実践活動することなくして解決しません。祈りから実践です」

世界平和のため「五年間で百万本の植林」という具体的な目標を掲げ実践したことで、現在は三百万本を超える森となり、沙漠の地に作物が育ち、豊かな土地へと変容しました。

注目すべきは、遠山氏が「世界平和」という大目標を掲げたからこそ、様々な問題が発生してもぶれることなく、事業を進めることが出来た点ではないでしょうか。

倫理研究所第二代理事長を務めた故・丸山竹秋は、「大目標へ向かって」と題して次のように述べています。

「いろいろとある目的や目標の、いちばん大きな、窮極的なものは何であろう。（中略）それは全世界を目指すことだ。全世界のこととは、結局世界の平和ということである」「このことを、しっかと心に抱いて自分の仕事に邁進する。そのとき生活はぴりっとひきしまり、充実する。（中略）誰しも望んでいる大目標に対して、わが仕事の照準をあわせる。これほど、すばらしいことはないではないか」（『丸山竹秋選集』第一巻）

倫理研究所の創設者である丸山敏雄は、夏の暑い日、かわいた道路に水を打っている一青年に「水を打つのも世界平和のためだ」と教えたといいます。

現在、自分が行なっている仕事も「世界平和」という大目標につながっていると意識することで、目の前のやるべき事を疎かにせず、真心を込めて取り組むことが出来るのではないでしょうか。

大目標を掲げ、さらにそこに向かって、日々の具体的な実践を積み重ねていくことで、自身の信念が強固なものとなります。

会社における大目標とは「経営理念」といえます。社員一丸で大目標に照準をあわせて、日々の業務に取り組みたいものです。

え・城谷俊也

一般社団法人倫理研究所法人局